令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　あの日をわすれない　」

広島県　呉市立安浦小学校　３年　森下（もりした）　深月（みつき）

2018 年７月６日，ごう雨さいがいが自分の町をおそった。雨がふりつづいていたが，自分では，大じょうぶだろうと思ってすごしていた。

しかし夜中に父から

「水がげんかんまで来ている。おじいちゃんの家は，大じょうぶらしいからそっちにひなんしよう。」

と起こされ，ひなんすることになった。

７月７日，そ父母の家のにわまで水がせまって来た。その様子を見て，わたしは，自分の家が心配になってきた。しかし，家には，もどれそうにない。水の力はすごいと感じた。

わたしは，水にながされて，しんでしまってはいけないと思い，水がひいてから家に向かうことにした。

水がひいてから家に向かった父と母が

「ゆか上まで土砂がながれてめちゃくちゃになっている。」

と話していた。

２日後，わたしと兄も自分の家に向かった。すでに２日前までの平和な町ではなかった。自分の体がふるえた。家の中は，想ぞうしていたよりもひどく，１かいは土砂が流れこみ家具や家電が水につかっていた。大切にしていた本や写真もどろでよごれている。

すぐに父や母の友だちがかけつけてくれ，いっしょに土砂をかきだしてくださった。きれいになるまで，かなりの時間がかかった。家のそうじが終わってからも，ゆかをはいでゆかしたをかんそうさせないといけない。かんそうさせてから，家の工事が終わるまでなんと４ヶ月もかかった。家で生活できるようになったのは，11 月だった。

「やっともとの生活にもどれる。」

わたしはすごくうれしかった。

あれから２年，だいぶ町はもとの町にもどった。もうあんなことが起きてほしくない。私はあの経験をしたからこそみんなに伝えたいことが３つある。

１つ目は，家の周辺のきけんな場所やひなんする場所を家族で話しあってほしい。

２つ目は，災がいが起こった時に必要な物をよう意しておいてほしい。たとえば，非常しょくやいんりょう水，薬，ねぶくろなどをあらかじめ用意しておくとよいと思った。

３つ目は，自分は大丈夫だと思わず，すぐにひなんしてほしい。今回自分は大丈夫だろうと思っていたと話されている方が多かったからだ。外にひなんすることがきけんな時は，すぐに２かいにひなんしてほしいと思う。

さいがいは，こわいものだと以前から思っていた。ところが実さいに経験すると予想以上にこわかったし，もとの生活にもどるのも時間がかかった。

私は，あのひのことをわすれず，じっさいにけいけんしたからこそ伝えられることをこれからも伝えていきたい。いつか災がいが起きたときにだれかの役に立ちたいと思っている。